

# 者米谷の生業複合体からみた 市場メカニズムの生起

Creation of a Market Mechanism  
in View of the Livelihood Complex in Zhemigu

西谷 大

NISHITANI Masaru

はじめに

①問題の所在

②者米谷の生業システム

③考察—他地域との比較—

まとめ

## 【論文要旨】

本稿では者米谷の生業システムは、生業複合体を編み出していることに特質がある。本稿では者米谷以外の地域の事例を参考にしながら、人が日常的に生態的な環境を利用するなかで、どのような条件が整うと生業戦略に差異性が発生し市場メカニズムが生起するのかを推論する。

者米谷では生態的な環境の差異、環境利用の差異、そして生業戦略の差異という3つの差異性と、市システムが絡み合いながら生業複合体を形成してきた。者米谷における生業複合体は市システムによってささえられ、相互に影響しあうことで促進されてきた。

生業の差異性と交換が市システムを生み出す過程は決して意識的におこなわれたのではない。者米谷の生態的な環境の差異性を各民族が利用するそのはじまりが、または特定の生態的な環境の選択と占有が、差異を生み出す市場メカニズムというシステムを宿していた。したがって不平等あるいは階層分化は、生態的な環境の差異性とともにあつたといえる。つまり者米谷にみいだされた利潤を生み出す市場メカニズムは、外在的な影響によって生起したのではなく、人びとがこの谷に住み利用しはじめたその時点で、その生起の要因がすでに生態的な環境の差異性のなかに埋め込まれていたといえる。

【キーワード】 生業戦略、生業複合体、市システム、差異の論理、市場メカニズム